川の子ども新聞

学校の活動シリーズ②

前橋市立元総社小学校

「牛池川の秘密をさぐる」

「川の子ども新聞」では、川や自然に関して活動をしている小中学校を紹介している。2回目となる今回は、前橋市立元総社小学校。学校のすぐ東側に牛池川が流れていて、3年生が総合学習で「牛池川の調査」に取り組んできたんだ。そして12月8日に、その発表会が行われた。さて、どんな発見があったかな?

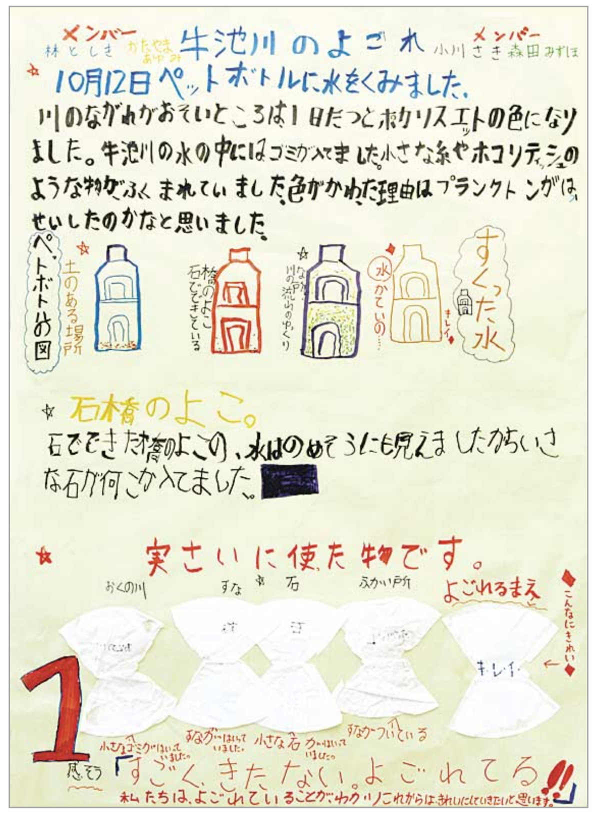
テーマを見つけて班分け―調査開始!

今回「牛池川の調査」に取り組んだ3年生は、2クラスの62人。初めにしたのは、実際に牛池川に触れること。川の水をくんできて水質調査をしたり、川の中に入ってどんな生き物がいるか調べたり。地域の人に聞いて、牛池川の歴史について勉強したりした。目や耳、頭だけでなく、体を使うと今までに知らなかった牛池川が少しずつ見えてきたみたい。各自が興味を持ったテーマに分かれて11の班を作り、いろんなことを調べたよ。テーマは、大きく分けて「環境」「生き物」「歴史」の3つ。どんな発表が聞けるかワクワク♪

牛池川に入って生き物を調査

ショック! 牛池川の水は汚くて、ごみがいっぱい

「環境」をテーマにしたのは、「牛池川の汚れ」と「ごみ」を調べた2つの班。牛池川の土のある場所、石橋の横、流れの遅い場所の3カ所の水と家庭の水をコーヒーフィルターに通して汚れをチェックした。その結果、家庭の水を通したフィルターはきれいなのに、牛池川の水を通したほうは砂やごみがあって汚れている!(右下の図)また落ちていたごみは、空き缶やビデオテープやビニールなどいっぱい。残念なことにごみ捨て場のような存在になっていたんだって。ごみは決められた場所に捨てようっていう理由がこの結果からも分かったんじゃないかな? もちろん牛池川だけに限らず、ね。



コーヒーフィルターを使ったりして調べた川の水の汚れ

理科室で水質を調査する

牛池川は昆虫や植物の大事なすみか

いちばんたくさんの班が調べたのが「生き物」。植物では、オオケタデ、リンドウ、エノコログサ、タマスダレなど「いろいろな草花があったのでビックリした」って! まだまだ発見がありそうだね。

昆虫や魚などでは、アメンボやタイコウチ、アメリカザリガニ、それにモンシロチョウ、ゴマシジミ、アキアカネ。ドジョウやメダカもすんでいた。小さな牛池川だけど、たくさんの命をはぐくんでいるんだ。

歴史の中の牛池川は別の顔を持っていた!?

歴史に興味を持ったのは、3つの班。今と昔を比べたり、牛池川を取り上げたカルタ(詳しくは下の記事を見てね!)の内容を調べたりした。その結果、牛池川は「昔、大洪水を起こしたこと」「小さいけれど大雨が降ると恐い川であること」「蒼海城のお堀の役目をしていた川であること」などが分かった。ふだん穏やかで静かな牛池川からは想像できない別の顔があってびっくり。

牛池川や元総社の歴史は、前に元総社小学校の先生でもあった石川れい子さんに教えてもらった

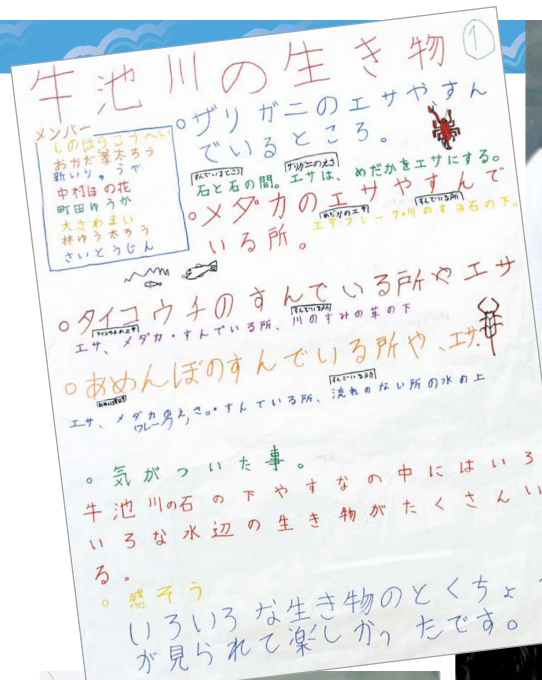
出てきた。これだから調べるのっておもしろいんだよね。

発表が終わると、みんなは「思った以上に緊張したけど、みんながちゃんと聞いていてくれてやりやすかった」、「調査だけでなく、みんなで発表の準備をしたのも楽しかった」とさまざまな感想を話してくれたよ。

牛池川を調べることでいろいろなことを知ることができたね。そして、まだまだたくさん学ぶことがありそうだね!

発表会を終えた3年1組と2組のみんな(後列は左から石川れい子さん、田村みづ江先生、五十嵐正登先生)

■前橋市立元総社小学校
前橋市元総社町一丁目33―11
○1874(明治7)年に元総社村馬場町に開校され、今年で133年になります。前橋市の西に位置し、近くには総社神社があり、東側には牛池川が流れています。現在、児童数は293人で11学級あります。



各班ごとに調べたことをもぞう紙にまとめて、みんなの前で発表したんだよ

「グリーンカーテン」で暑い夏も涼しく快適

元総社小学校は、今年、前橋市教育委員会の「グリーンカーテンモデル校」に指定されたんだ。4月から始めた、その取り組みを紹介するね。

大きく育った緑のカーテン! 涼しくて気持ちいいね!

■緑の日よけ、それがグリーンカーテン

「グリーンカーテン」とは、校舎の窓際にヘチマやアサガオなどツルのある植物を植えて、カーテンのようにすることで、夏の暑さを和らげようというものなんだ。植物を育てる勉強ができ、その結果、教室が涼しく快適になる。この取り組みは、前橋市内で15の小中学校がやっているよ。

■きれいな葉っぱがつくようみんなで草むしり

4月に種まきをしたのは、ヘチマやツルレイシ(ゴーヤ)やアサガオなど。ヘチマの種は皮がかたくて芽が出にくいから、種の両脇をはさみで切っておいたんだって。その後も、グリーンカーテンにはどんな植物が良いのかを調べるために、ヒョウタンやハヤトウリも追加。雑草が出始めると、みんな、言われなくても草むしりをしたり、4―6年生の「緑の委員会」の子どもたちが定期的に成長を観察したりして、大事に育てた。

ていねいに苗を植えかえる

■3階に届くくらいの立派なカーテンが完成

途中、ヒョウタンの葉とツルレイシの茎が虫に食われるというハプニングがあったけど、ぐんぐん成長して2学期が始まるころには3階に届くまでに! グリーンカーテンがかかった窓は「涼しくってとってもきれい」ってみんなからも大好評だったよ。

牛池川のマメ知識

学校の東側を流れる牛池川

◆名前の由来?

あたりまえのように「牛池川」って呼んでいるけれど、どうしてこの名がついたのか理由ははっきり分からないんだ。いくつかの説は残っている。その一つは…むかし、この近くに住んでいた役人たちが物を運んだり、車を引かせたりした牛に、草や塩をあげて水を飲ませた池があったから「牛池川」の名前がついた…。でもこれは確かな説ではないんだ。みんなも、近くにある川の名前の由来を調べてみてね。

◆榛名山ろくの伏流水

牛池川をどんどんさかのぼると、行き着くのは榛東村。榛名山ろくの川のほとんどは、榛名山の奥深いところから流れ出ているけれど牛池川はちがう。山に降った雨水が地下に染み込んで地下水として流れ、途中で地上へわき出して川となっているんだ。これを「伏流水」って呼ぶんだよ。

牛池川の水源のひとつ(榛東村広馬場のあたり)

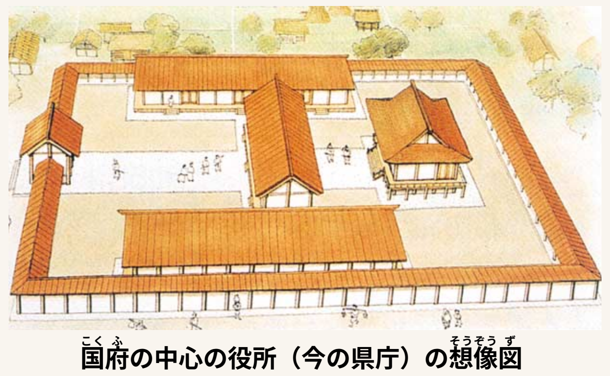
◆暴れん坊の川だった

牛池川のふるさと榛名山は、火山だったため、山全体が火山灰や火山岩で覆われている。雨水が染み込むのも流れ下るのも早い。だから、むかしは大雨が降ると川の水がすぐにあふれて大水が出てしまうことが多かったんだ。大水が出て暴れるから「暴れ川」とも呼ばれていたんだよ。

元総社の歴史と牛池川

◆元総社はむかし政治の中心地だった

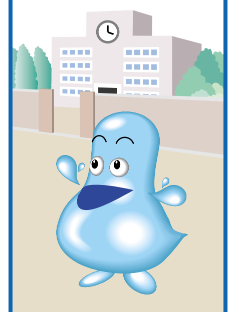
今から1300年くらい前、この地域には上野国(今の群馬県)の政治の中心である国府が置かれていた。そのことは地名や神社などから分かるんだ。発掘調査でも国府に関係があると思われる遺跡や建物のあとが発見されている。また、上野国以外にも国府があったと考えられている地域に「牛」のつく地名が残っている場所があるというから、ますます興味深いね。


国府の中心の役所(今の県庁)の想像図

◆郷土カルタにも読まれる重要な存在

元総社小学校には「元総社小郷土カルタ」と呼ばれる特別なカルタがあるんだ。これは、1983年度にこの学校の先生や子どもたちが中心となって、地区の歴史や文化を題材にして作ったもの。この中にも「牛池」の文字が入った札が2枚ある。

「牛池と染谷がかこむ蒼海城」と「土俵　東を守る牛池川」。今から600年くらい前、牛池川と染谷川に挟まれたところに蒼海城というお城があったんだ。お城の周りには「お堀」といって敵から城を守るために地面を掘って水をたたえておく場所があるんだけど、牛池川はお堀の役目もしていたんだって。お城のガードマンだったってわけだね。そして、川の水がいつもたくさんあるように土俵が並べておかれていたんだって。牛池川には、いろんな歴史が刻まれているんだね。

元総社小郷土カルタの「う」の札(右)と「つ」の札

□取材協力/石川れい子さん